

平成 26 年度（2014 年度）

第 54 回大会

男子優勝：札幌日大 女子優勝：札幌日大

【全道大会寸評】

第 54 回となる北海道テニス選手権大会は、6 月 10 日から 12 日の 3 日間の予定で、江別市野幌総合運動公園テニスコートで開催されましたが、暑さの中で行われた昨年の旭川大会とは反対に 3 日間とも雨に見舞われ、特に 3 日目は豪雨のため試合を全く消化できず、翌日の天候も回復が見込まれないということで、4 日目は厚真ドーム（室内 3 面）に会場を変更して何とか試合を終了することとなりました。

今大会を通して、当番校の小樽工業高校の教職員や生徒のみなさんをはじめ、多くの方々のご尽力のおかげで無事大会を終えることができましたことを、心から感謝申し上げます。

男子団体戦は 6 年連続で札幌日本大学高校が優勝し、女子団体戦も 4 年連続で札幌日本大学高校が優勝しました。今年は男女ともに戦力が充実しており、特に男子は全国大会でも十分活躍が期待できると思われます。

男子ダブルスは第 1 シードの池添・徳光組（札幌日大）が昨年に続き連覇を果たしました。全国大会ではシード選手としての活躍が期待されます。

女子ダブルスは第 1 シードの神田・山口組（札幌日大）が実力を発揮し優勝しました。

男子シングルスは第 1 シードの池添克哉（札幌日大）が決勝まで他を寄せ付けない力を見せつけ、北海道大会では初めての男子 3 連覇と、2 年連続の単・複・団体の 3 冠の偉業を成し遂げました。

女子シングルスも第 2 シードの 2 年生の東優花（札幌日大）が実力を発揮し優勝しました。

今大会は男女ともに札幌勢の活躍が目立った大会となりましたが、男子シングルスでは函館支部から全国大会へ駒を進める選手が出ており、ここ数年道内各支部の選手の力の向上も感じられた大会となりました。

以上、各選手の全国高校総体での活躍を期待したいと思います。

【全国大会】

南関東総体テニス競技は、東京都有明の森テニスコートで行われた。近年にめずらしくハードコートで実施され、スピード感あふれるプレーと高校生の鋭刺とした姿に、休日には1万人を超える観客が声援をおくった。

今大会で特記すべきは、男子札幌日大の活躍である。北海道大会個人戦シングルスで史上初の3連覇を成し遂げた池添をエースに、徳光、加藤、中野と充実したメンバーで臨み、東京学館浦安（千葉）、相生学院（兵庫）、大成（東京）、名経大市邨（愛知）と強豪校がひしめくブロックを見事に勝ち上がった。1回戦では海星（長崎）と対戦、ダブルス加藤・中野組は中盤以降コンビネーションが冴え8-5で勝ち、シングルス2徳光も8-3と快勝、2-1で勝利した。2回戦の名経大市邨との対戦では、池添がシングル1のエース対決をタイブレークで制した後、シングルス2徳光は終始落ち着いたプレーで8-2と快勝、2-1で勝利した。3回戦では第6シードの東京学館浦安と対戦、ダブルス加藤・中野組が8-4と快勝した後、シングルス1池添は敗退したものの、シングルス2徳光は、動きが良く、粘り強いプレー、巧みな試合運びで8-6と接戦をものにし、2-1での勝利となった。ベスト4をかけての準々決勝では、優勝した四日市工業（三重）と対戦、ダブルス加藤・中野組が3-6、4-6で敗退、シングルス1池添は第1セットを6-4で取ったものの、続く2セットを2-6、1-6で落とし、0-2での敗退となった。男子団体戦における北海道勢のベスト8は、2007年佐賀総体の藻岩高校以来7年ぶりのことである。個人戦シングルスでも、池添が1回戦秋田商業、2回戦静岡市立、3回戦慶応湘南藤沢（神奈川）の選手に勝利、ベスト4に入った誉（大阪）の選手には敗れはしたが、ベスト16という好成績を収めた。個人戦ダブルスの、池添・徳光組は第3シードであったが、2回戦で準優勝した湘南工大付属（神奈川）の選手に5-8と惜敗、残念な結果であった。

一方女子は、団体戦1回戦で札幌日大は熊本学園大学付属と対戦、ダブルス神田・山口組が8-2、シングルス2平野が8-1と快勝、2-1で勝利して2回戦に駒を進めたが、大阪の強豪校城南学園にダブルス神田・山口組が2-8、シングルス1東が3-8で敗れ、0-2での敗退となった。個人戦でも、シングルスで平野と中川（立命館慶祥）が1回戦突破を果たしたにとどまった。今大会も、多くの1・2年生が出場しており、今後の活躍が期待される。

優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校 主将 池添 克哉

私たち札幌日本大学高等学校男子テニス部は、「全国制覇」を目標にし日々練習に取り組んできました。練習では基本練習に加え、2対1や球出しでの振り回しなど、体力面で常に追い込まれる練習を多めに行うことで、体力・精神面で負けない身体を作り上げようと努力しました。その結果が連戦の多い高体連で勝ち上がることができた一つの理由です。また、私たちにとって全

道大会優勝は目標ではなく通過点であり、絶対に負けることができない大会でした。初戦から決勝まで、部員全員が気合いを入れ試合に臨むことができました。その結果、私たちは6年連続7回目の優勝を遂げることができ、インターハイ出場を決めました。

そして、私たちは試合を行なうにあたり、感謝の気持ちを持つことを心掛けてきました、私たちがテニスというスポーツを行なうことができるのは、顧問の先生方、コーチ、部活動の仲間たち、そして両親と、本当に多くの方々の支えがあってこそです。その方々への感謝の気持ちがあって、はじめて試合に勝つことができるのだと思っています。

札幌日大高校テニス部の後輩たちには、全道大会、そしてインターハイの舞台で先輩方の成績を上回る活躍をしてほしいと心から願っています。

優勝のよろこび

札幌日本大学高等学校 主将 平野 光留

私達、札幌日本大学高等学校女子テニス部は今年で4年連続優勝という結果を残すことができました。

全国選抜の北海道予選では、団体準優勝という結果で終わりました。このままではインターハイ北海道予選で負けてしまうのではないかと不安で悩むときもありました。ですが、チーム全体のインターハイでは絶対に優勝するという意志はよりいっそう高まり、「全国制覇」の目標のもと限られた時間の中、一日一日を大事に練習の時では皆で声を掛け合いながら、チーム全体でレベルアップをし団結力とともに技術やメンタル強化もできたと思います。時にはテニスの調子が悪くプレーの壁にぶつかった時もありましたが、仲間がいたから辛い時も皆で頑張れました。

試合では今までの練習をやりきってきた分、何の不安もなく自信を持ったプレーをすることができ、団体戦として1ポイントでも自分のミスでポイントを落とさないように、団体の流れが悪くならないように自分のテニスをやりきれました。

決勝戦ではチーム一丸となって、ダブルスもシングルスも皆今までの練習の成果がでた良い試合でした。声を枯らして応援をしてくれたチームメイト、いつも送り迎えをして試合を応援して支えてくれる両親、そして常にチームのことを考え指導してくれた我妻先生には言葉に表せないぐらい感謝の気持ちで一杯です。

今後も後輩達には連覇をつなげてほしい。そして、全国制覇できるよう頑張ってもらいたいです。

全国高校総体 [第 104 回全国高等学校テニス選手権大会] 東京都
(～君の汗 輝く一滴 勝利の雫～ 2014 煌めく青春・南関東総体)

8月1日～8日 有明テニスの森公園

男子 個人戦シングルス 優勝 : 高橋 悠介 (神奈川・湘南工大附)
女子 個人戦シングルス 優勝 : 伊藤 佑寧 (東京・日出)